令和６年 10 月

第４回　令和５・６年度武蔵野市長期宿泊体験活動検証委員会概要

１　議事の報告（委員の主な意見）

（１） 体験活動の系統性や発展性、小中連携について②

・中学校の修学旅行を含め宿泊体験学習が社会参画につながるかについては、目的をしっかり定めないと違う方向にいってしまうことが懸念される。

・ある学校では、中１のセカンドスクール、中２の鎌倉、中３の京都・奈良の修学旅行後に、現地に提言を発信している。学年が進むにつれ表現が深くなるという印象である。修学旅行の提言のテーマには、地域活性化、国際交流、災害・防災などがあった。

・保護者としては、子どもからの話を聞くと、班行動はすばらしい人間関係形成、社会参画になると感じている。

・合意形成を社会参画の１つとすれば考えられなくもないが、社会参画がどのようなものかによるため、社会参画の共通理解のもとに、具体例や目指す生徒像が確認できるとよい。

（２） 授業時間の適切な配当について②

・各学校のねらいに応じた時数配当による特徴的な４つの事例と２つの参考事例を示されたが、例えば事例３の学校は、総合的な学習は学級総合で 70 時間とっているので、セカンドスクールは学校行事に 32 時間配当している。そして、宿での振り返りの時間を大切にして主体性を育んでいる。

・事例３を中学校でやろうとすると、１年生だけ５～６日多く登校しなければならない。中学１年のカリキュラムがかなり厳しいので、授業時数特例制度ついて具体的にどのような運用をしているのか知りたい。

・実際にセカンドスクールに行った教員と、行かなかった教員とでは、活動内容等について理解の差がある。市全体で盛り上げていくなら、セカンドスクールのよさや意義を全員で共有する必要がある。

（３）現地アンケート結果についての意見交換

・学校として、このアンケート結果や現地での民泊の経験を振り返ると、高齢化をひしひしと感じる。マイクロバス運転などの外部委託、宿のスタッフの補助、料金など、現地の旅行会社とも関わっていく必要がある。

・この現地アンケートを依頼するために、宿を回った際に、「泊数について厳しい」ということを全宿から言われた。

・できることをこちらからどんどん提示して、無理のない範囲で続ける。厳しくなったら、ほかのところを開拓するという方向が必要だと思う。

・中学校では、世代交代が進んでいる地区があったのでそのような場所を実施地の対象としたり、宿泊期間中にホテル泊を入れたりして対応している。

・安全面がすごく心配だ。観光協会や教育委員会による各宿のチェック体制が必要だと考える。